

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 12月12日

【評価実施概要】

事業所番号	3473100760		
法人名	医療法人社団 林医院		
事業所名	グループホーム 夕霧の家		
所在地 (電話番号)	広島県呉市音戸町畑3丁目20-36 (電話) 0823-56-1202		
評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会		
所在地	広島市南区皆実町1丁目6-29		
訪問調査日	平成19年12月10日	評価確定日	平成19年12月21日

【情報提供票より】(19年 11月 2日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 2 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 8 人, 非常勤 6 人, 常勤換算	14 人

(2) 建物概要

建物形態	併設 / 単独	新築 / 改築
建物構造	木造 造り 2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,500 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	350 円
	夕食	300 円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要(11月 2日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	12 名
要介護1	7 名	要介護2	5 名	
要介護3	5 名	要介護4	1 名	
要介護5	名		要支援2 名	
年齢	平均 83 歳	最低	64 歳	最高 97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	池田歯科医院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「夕霧の家」では、利用者の方々が明るく、元気に掃除や食事に関する一連の流れなどを日常生活の中で一人ひとりの力に合わせて行い、また利用者自身が決定する場面が随所に見られた。また、地域の方々や各ユニット及び併設施設の利用者と職員間の交流も積極的に行われている。全職員は、常日頃から利用者一人ひとりに向き合い、気持に寄り添い、普通のことを継続しながら、お互い様の関係の中で支援に努められているようであった。母体の医療機関や関連及び併設施設との協力体制も強固なものになっており、「夕霧の家」共々地域での医療・福祉介護の拠点となっている。また、ホーム内外の環境も優れていると感じられるグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価では、特に改善点がなかったが、更なる質の向上を目指すために、自己評価で明らかになった課題を全職員でよく話し合いながら、特に利用者の生活環境の改善に向けての取り組みを行っている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 運営者、管理者、職員で自己評価の意義や目的については話し合い、積極的に取り組み、サービスの質の確保に活かされている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 会議の場では、ホームからの報告などに参加されたメンバーからの意見等も多く出されており、いただいた意見等は全職員がミーティングなどで話し合いながらサービスの向上に活かされている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 常日頃から全職員は、家族等との信頼関係の構築に努め、家族等からの意見などは前向きにとらえながらその発生要因を絞り込み、課題を分析し、家族等の立場に立つての説明を行っている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 常日頃から、事業所の機能を地域に還元したり、利用者と職員が共に地域の行事等に積極的に出かけるなどしながら、これらを通してお隣とおしの関係づくりや交流を図っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は、利用者の方々が地域で暮らしつづけることを基本とし、またこれらを支えることを柱として作りあげられている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念に基づいて、全職員が話し合っって理念がより実践につながるように月毎の目標を設定して、支援に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者と職員は一体となり積極的に、地域の行事や清掃等には参加しながら交流を広めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員が評価に前向きに取り組みながら、サービスの質の確保に活かされている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、事業所からの報告とともに参加者からの質問や意見等を受け、双方向的な会議となっている。		今以上の取り組みを目指して、地域の幅広い立場の人に参加していただくように、地域資源の見直しや、また例えば評価結果で明らかになった課題については特に会議で報告し、意見をいただくなどしながら質の確保に結びつけることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	所轄の行政担当者とは定期的に情報交換などを行いながら、サービスの質の向上へと取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等の来訪時には声をかけ、利用者の状況や家族のことについて話し合っており、また定期的に近況報告を送ったり、他に電話等で様子を知らせている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員や事業所側から意見等を積極的に聴く努力や、雰囲気づくりを行いながら、家族等から出された意見等は大切な宝としてサービスに反映させていく取り組みを行っている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が代わる時は、引き継ぎの期間を十分に取るなどして、利用者へのダメージを最少にするための対応が行われている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日常的に学ぶことを推進し、事業所内外の研修などには出来るだけ多くの職員が参加出来るような体制が構築されている。また、研修報告は全職員が閲覧できるようにしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に、他のグループホームとの研修や交流を行っており、事業所や地域全体としてのサービス水準の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者一人ひとりが安心してサービスを受けられるよう、相談の時点から利用に至るまで、利用者の視点に立って柔軟に支援を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員はただ傍についているだけではなく、利用者の思いや、不安、喜びなどを共に共有しながら、共に支えあうような人間関係づくりに取り組んでいる。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常日頃から職員全員で、利用者一人ひとりへのアプローチを丁寧に行いながら支援を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントを含め全職員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行い、利用者の視点に立って利用者が地域で暮らし続けるための介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	常に新鮮な目で利用者や家族の今の状況や意向を確認しながら、柔軟かつ臨機応変な対応ができる計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体の医療機関や関連・併設の事業所と協力しながら、利用者と家族が安心して暮らし続けていくための支援(機能)の体制が整えられている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者と家族の希望する医療機関・医師に、受診できるような支援を行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	早期からの話し合いと関係者全体の意見統一が来ている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないような言葉かけや対応を、全職員がしないことの徹底が図られている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常日頃から、利用者が主体となってその人らしい生活ができることを基本として、一人ひとりの状態や思いに配慮しながら柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の一連の流れは、利用者の意志や気持ちを大切にしながら進めており、また職員と利用者が同じ物を食べながら楽しい雰囲気となっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の習慣や希望に合わせて、安心と満足感などを持ってもらえる支援を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の習慣、希望、有する力を踏まえて、本人が生きることへの支援や気晴らしの支援に努めている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の状態や本人の習慣、希望、季節や地域のその時々状況に応じて、利用者一人ひとりが楽しめる支援に取り組んでいる。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることによる弊害を全職員は理解しており、見守りや連携プレーなどで日中鍵をかけないですむ工夫に取り組んでいる。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	事業所だけの定期的な訓練だけではなく、地域との常日頃からの交流を通して協力が得られるような体制がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	家族、職員間で情報や気づき、アイデアを出し合いながら、利用者の食生活を様々な面から共に支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者一人ひとりにとって居心地よく過ごせるように、利用者一人ひとりの感覚や価値観を大切にしながら暮らしの場が整えられている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅との違いによる不安などを最少にするために、使い慣れた馴染みの物を傍に置いておくなど、本人や家族と相談しながら個別に応じた工夫が行われている。		

介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 認知症対応型共同生活介護 夕霧の家

評価年月日 19 年 11 月 1日

記入年月日 19 年 11 月 2日

記入者 職 氏名 金石 洋子

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

理念の基づく運営

1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	地域との交流を大切にしており、定期的に小学校や保育所のみなさんの訪問を受けている。 地域の行事に参加したり、学校行事の見学に行くなどしている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	職員全員理念に沿って日々実行している。 毎月の目標を定めて、ボードに貼り出して日々実行している。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	グル- プホ- ムのオ- プン時、地域の自治会婦人会、民生委員などを招待し、理解を得るよう努めた。		

2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	近所の方から花や野菜をいただいたり、ボランティアで楽器の演奏をしていただいたりするなど立ち寄っていただけるようになっている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の行事や清掃活動などに積極的に参加している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域の奉仕活動や、行事などにも積極的に参加しお手伝いをしている。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	利用者の生活環境の改善に向けて、職員一同日々努力している。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	地域の皆様や家族に対して、報告を行い、また積極的に意見を聞き、サービスの向上に努めている。		
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市の担当者と定期的に連絡を取り合い、意見交換を行っている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	必要に応じて学習会や関係者との話し合いを持ち、それらを活かせるように努力している。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修などがあれば参加し、ミ・テイク®などで報告するようにしている。職員一同、細心の注意を払い、防止に努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	理解、納得していただけるように説明するなど努力している。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	管理者や職員が声かけするなどして、表現しやすい環境をつくっている。また、不満、苦情を受けた場合は、全職員に知らせ、運営に反映できるように努力している。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	家族が訪問したときに報告している。また、近況報告を、毎月お送りしている。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族が訪問したときにお伺いしている。言い難いことがあれば、文書で書いていただくようにもしている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に一回ミーティングをしており、聞く機会を設けている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	時間的な状況に応じた勤務体制を作り、ロケーションを組んでいる。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>離職率が低くなり、利用者との関わりが持てるようになってきている。</p>		
5 人材の育成と支援				
19	<p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>職員が研修などに積極的に参加できるようにしている。研修後は、ミーティングなどで報告している。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>定期的に他施設の行事などに参加し話し合いを持つなど取り組んでいる</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>できるだけ直接聴くようにしている。言い難いことはノートに書いてもらうなどしている。</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	<p>必要があれば職員運営者に報告時し、運営者は定期的に施設を訪問するなど、働きやすい環境づくりを心掛けている</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	必要に、応じて、話を聞く機会を持ち、対処している。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	必要があれば連絡を取り合うなどし、話を聞く機会を持ち、受け止めるようにしている。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談を受けたときに、その都度話し合いを持ち対応できるように努力している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人や家族と話し合いを持ち、要望を見極めながら対処している。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員が常に接し、人生経験を聞いたりできることを手伝ってもらっている。		
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	定期的に連絡を取り合って、利用者のことを報告し、支えあう関係を持っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	家族が訪問されたときに、一緒にお茶を飲んでいただいたり、外出をしていただくなど、よりよい関係が保たれるように支援している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	地域の行事などに参加するなどしている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	仲の良い者どうし席を近くにするなど、関わり合いを持てるようにしている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	同じ系列の施設のサ - ビス利用を勧めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人に関わる資料を検討しながら、支援を工夫している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	介護計画などを活用し、状況の把握に努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	利用者一人ひとりの状態の把握に努め、支援している。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	家族の面会のときに、相談や意見を聞く場を作っている。		
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	見直しは、定期的に行っている。家族の面会のときに目を通していただき、意見があれば聞いている。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	都度記録し、活かしている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	ホ - ムのケアに固執することなく、実情や状態をよく判断し、他のサ - ビスへの変更も柔軟に行っている。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	利用者の状態に応じて、地域の皆様と連携を取りながら支援している。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	必要に応じて関係者との話し合いを持ち、連携を取り合いながら支援している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	日常的に連絡を取り合い、連携を取っている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	本人や、家族の希望する医療機関で受診している。医師の回診が週に二回ある。連携の医療機関との受診も行っている。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	理事長である林医師の、指示、助言をいただいている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	いつでも気軽に相談できるようにしており、支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院した場合は、こまめに連絡を取り合っている。 医師間の連携もある。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	入居時に、本人、家族、主治医との連携により終末期における対応を話し合い、明確にしている。		
48	重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	本人の状態を見極めたうえ、主治医と相談し、主治医とともによりよい支援ができるように、取り組んでいる。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。	問題があれば、家族や担当者に相談しながら、対応している。		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;">その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</div> <p>1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	職員一同、利用者に対して敬意を払い接するように心掛けている。個人記録も、十分に注意して取り扱っている。		
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	職員は、利用者が希望を言えるように、日常的に取り組んでいる。本人に決めていただくようにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的に声掛けは行っているが利用者本人のペースを大切にしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	髪型や、服装、化粧品など好みに合わせて支援している。 馴染みの美容院があれば、家族とともにしている。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	職員も利用者と同じ食事を食べており、利用者一人ひとりにできる範囲内で準備や片づけをしてもらっている。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	家族に持参していただいたり、外出できる利用者は買い物に行っている。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	利用者一人ひとりに合わせた対応を心掛けている。できるところまでは見守りを行い、できないところは、さりげなくカバーしている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	基本的に、利用者本人の希望とおりで入浴している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	<p>安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。</p>	<p>個室で休まれたり、フロアの長椅子で休まれたりと一人ひとりの特徴を把握して支援している。また、いままで薬に頼っていた利用者も、一日の運動量を増やすなどして、極力服用せずに眠れるように支援している。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。</p>	<p>一人ひとりに合わせた対応を心掛けている。</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>個々の力量を判断しながら対応している。</p>		
61	<p>日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。</p>	<p>買い物があれば、近所の店を利用しているが、希望があれば同行している。車で同行して、離れた地域に買い物に行く場合もある。また、周辺に散歩に行けるように支援している。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。</p>	<p>季節に応じて、花見、花火大会、紅葉を観に行くなど、できる限りの支援をしている。</p>		
63	<p>電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>暑中見舞い、年賀状など書いていただくように促すことや、電話の利用がある場合は、必要に応じて介助するなど支援している。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64	<p>家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	<p>家族、知人、友人などいつでも気軽に訪問していただいている。希望があれば、一緒に食事をしていただけるようにしている。</p>		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	<p>身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>職員全員が認識し、身体拘束のないケアに取り組んでいる。</p>		
66	<p>鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>	<p>利用者の状態を把握し、鍵をかけないように工夫している。</p>		
67	<p>利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>職員は、確認できる場所に位置し、観察できるようにしている。</p>		
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>刃物などは、利用者の手の届かない所に保管している。 薬品は、専用の保管場所があり、施錠している。</p>		
69	<p>事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>転倒記録など活用しながら、再発防止に取り組んでいる。 職員一同、日頃から細心の注意を払っている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。	理事長、林医師の指示、指導により、職員も都度対応ができるように、日々学習している。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	定期的に非難訓練などを実施し、連絡体制や、避難路、避難の手順などを確認している。地域の皆さんと交流するなどし、協力を得られるようにしている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	家族の訪問のときに、話し合いをしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	職員一同、細心の注意を払っている。申し送りなどで報告し、情報を共有している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬品の知識の習得は、看護師を交えてのミーティングなどで行っている。服薬は、医師の指示通りに行っている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かさず働きかけ等に取り組んでいる。	状態を把握し、運動(散歩など)をしたり、食事に気を配るなど、対処している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	うがい薬を使用しているうがいの支援や、毎日の歯磨き、義歯洗浄など、日常的に行っている。		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事のカロリー - 計算、摂取量を記録し、状態を把握し、支援している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。 (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	毎日、バイタルチェックをしている。有熱者は、一日三回検温し、医師に報告し、指示を受けている。必要であれば往診を依頼する。また、定期的に医師の回診があり、重症感染者は、入院設備のある医療機関に移す。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理器具は、常に消毒している。食材は、冷蔵庫に保管し、万全を期している。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	白とピンクの建物で入りやすく、親しみやすい表札もかけている。利用者と共に草花を、季節ごとに植え替える工夫を心掛けている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	照明類は、落ち着いた雰囲気ができるように、配慮している。テレビの音量調節は、こまめに行っている。職員間の会話は、落ち着いたトーンで行うように心掛けている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	個室で休む空間と、自由に団欒できるフロアを設けている。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた家具や、新しく家具を購入したりと、使いやすい物を、利用者や、家族に相談しながら、場所づくりをしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	全室に空調を完備している。換気も状況に応じて行っている(室温は、季節に応じてフロア、全室統一にするなど)		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	要所の手すり、浴室のすべりどめ、階段は広くすべりどめをつけるなど、安全で快適に過ごせるように、工夫している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	汚れ、シミなどは、速やかに、きれいにするようにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ベランダを広く設けており、日光浴や、談話などを楽しんでもいただけるようにしている。		